

寺報 善 巧

発行
☎ 938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール zengyou@box.email.ne.jp

きょうの一日は
永遠の生命につながる一日
今年もよろしく
善巧寺・法輪寺・照行寺

寺
ごよみ

一月

一日 修正会
三日 日校かるた会
五日 栗虫報恩講
六日 日校成人式
一日 日校成人式
一二日 ご正忌準備

御正忌

一三日 一時 お逮夜
一四日 一時 お逮夜
一五日 十一時 下村お講
一時 お逮夜
夜七時 お初夜
一六日 十一時 浦山・栃屋・
熊野・大橋お講
一時 ご満座
ご講師 佐々木徹生師



本堂に座り、手を合わせる。

本堂のわたしは、自分が楽をすることしか考えていない。

本堂のわたしは、自分の欲求を満たすためにしか行動出来ない。

本堂のわたしは、自分さえよければいいと思っ

ている。
本堂のわたしは、そういう自分に気づけず毎日を
過ごしている。

やつのことで、自分に少しの余裕が出来て、人
のしあわせを願う時でも、それは往々にして自分
の価値観を押し付けている。

それは往々にして自分の手柄としている。

やはり、ほんとうのわたしは自分のことしか考え
ていない。

そう、本堂のわたしは、仏さまの前に座るとい
うことを持たない。

本堂のわたしは、仏さまに手を合わすというこ
ろを持たない。

そのわたしが、本堂に座り、手を合わせる。

他力とは仏の力をいう。

善巧寺住職 雪山 俊隆

阿彌陀

花

本願を聞く①

本願寺派勸学

梯實圓和上



「浄土真宗」というと、私どもは本願寺や、仏光寺や、専修寺などを本山としている教団の名前として使っています。それも間違っているわけではありませんが、教団の名称となったのは後からでして、親鸞聖人（一一七三―一二六二）が浄土真宗といわれたときには、阿彌陀さまの本願の働き

を指しておられたわけですから、『親鸞聖人御消息』に、「選択本願は浄土真宗なり」といわれているように、聖人にとって浄土真宗とは、阿彌陀如来さまの本願のみ教えの呼び名でした。そしてその内容を詳しく教義体系として展開されたのが聖人の主著の『教行証文類』『教行信証』でした。聖人が『教行証文類』をお書きになつていたときには、まだ真宗教団らしいものはできていませんでした。しかしやがて親鸞聖人のみ教えを喜ぶ人たちが集まつて、それが一つの集団をつくるようになりしました。しかし組織としては微々たるものでした。それが、はつきりと形をあらわし、全国的な組織を持つようにな

るのは第八代目の宗主・蓮如上人（一四一五―一四九九）の頃からでした。文明五年の『御文章』の中で、私どもは、親鸞聖人が浄土真宗といわれた本願のみ教えを聞いて喜ぶものの集まりなんだから、この集まりもまた浄土真宗と言わねばならぬ、とおっしゃったわけです。親鸞聖人が亡くなつて二百年たつていました。こういう訳で、浄土真宗を聞くということは、阿彌陀如来さまの本願を聞くことであるということとがわかりましょう。ところでその本願というのは如来さまの願いのことです。如来さまが私たちの一人一人にかけてくださっている願いのことを「本願」というのですから、私たちにはどんな願いがかけられているのか、如来さまはどういうことを私たちに願っているか、それらを聞かせていただかねばな

りません。それを聞いてどうするかといえますと、その如来さまの願いにしたがつて、自分の生きることの意味と、そして死ぬことの意味をはつきりと確認していくわけです。それを仏法を聞くというのです。私が生きているのはどんな意味を持ち、どのように生きていくのか、死ぬことはどんな意味を持ち、死をどう受け入れたいのかということ、阿彌陀如来さまの本願のお言葉のなかに知らせていただくわけです。そこに自ずから新しい人生観が確立されていきます。そういう人を浄土真宗の信心の行者と呼ぶわけです。

皆様が今日ここへお参りして来られたのは、何のためかといえば、如来さまの願いを聞くためでしょう。ところが中には、如来さまに自分の願いを聞かせようとして参つてくる人があります。ここにはいらつしやらないだろうと思います。明教院僧鎔和上以来二百年間お育てを受け続けてこられたこの善巧寺のご門徒にはそんな方は一人もいませんが、よそにはたくさんいらつしやいます。如来さまの願いを聞かずに聞かせようとしている方です。悪いことはしますが、どうぞ地獄に落とさないようお願いします。不摂生をしますが病気をしないようお願いします。他人はどうなろうと、自分と自分に都合のいい者だけは無病息災で生きられるようお願いしますと、一生懸命に如来さまにいうことを聞かせてやろうとするような宗旨とは違います。浄土真宗は如来さまの願いをひたすら聞かせて頂く宗旨であるということ、をまず最初に確認しておく必要が

あります。

その阿弥陀如来の本願は、『大無量寿経』の中に説かれていますので、親鸞聖人は『尊号真像銘文』の初めに、「大無量寿経言といふは、如来の四十八願を説きたまへる経なり」とおっしゃっています。正確には『仏説無量寿経』といいますが、一般には『大無量寿経』とか、略して『大経』とも喚んでいます。『大無量寿経』には、阿弥陀如来さまがまだ仏になられる前、法蔵菩薩と名乗られていたときに、さまざま苦悩に責めさいなまれている生きとし生けるすべてのものを救って、安らかな悟りを実現させてやろうと誓願をされましたが、それを四十八通りの誓願として示されていますので四十八願と呼んでいます。その一願一願は「設我得仏」という言葉ではじまりまして、「不取正覚」という言葉

で終わっています。「たとえ私が仏になり得たとしても、このような事柄を実現できないようならば、仏になりません」という言葉で説かれているわけです。一願一願に如来としての「いのち」を懸けられていたことがわかります。この誓願が完成したとき、阿弥陀仏という救済者となられたと説かれているのです。ところでその四十八願は一つの中核になっている誓願をめぐって展開しております。その中心になる願が第十八番目に誓っておりますから、これを第十八願というわけです。この度はその第十八願の内容をお話ししますので、先ず全文をあらかじめ書いておきます。

たとひわれ仏を得たらんに、十方の衆生、至心に信樂して、わが国に生ぜんと欲ひて、乃至十念せん。もし生ぜずは、正覚を取らじ。

ただ五逆と誹謗正法とを除く。

「たとえ私が仏となりえたとしても、十方世界の生きとし生けるすべてのものが、我が真実なる誓願を疑いなく信じ受けいれて、私の願いの通りに私の国に生まれようと思つて、たとえわずか十遍であれ私の名を称えながら生きた者を、もし浄土へ生まれさせることができないようならば私は正覚を取りません。ただ五逆の罪をつくり、正法を謗つて恥じないようなものは除きます」と誓願されているのです。(つづく)



速慶宿縁

賓圓

利井明弘師往生

くお浄土に華ひらくく

善巧寺前住職隆弘の兄、利井明弘師(常見寺住職、行信教学校校長)が十二月八日講演先の広島で突然還浄されました。



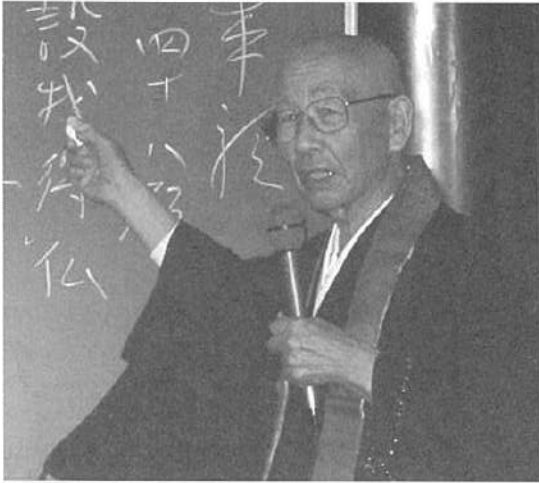
には十、二十余年にわたつてご教化いただいていた。空華忌には明弘師と高田先生に隔年でご出講いただきました。このように深いご縁とご恩のある常見寺住職のお葬儀に、総代、仏婦など門徒さんたち共にお参りさせていただきました。

常見寺にある行信教校(宗門私塾)は僧鎔師の開かれた空華盧の流れをくむ学校で、創設者である利井鮮妙師は僧鎔師の曾孫弟子にあたります。僧鎔師百五十回忌には利井興隆住職がご講話なさいました。僧鎔師二百回忌には隆弘の縁で父興弘、兄明弘が共にご参詣くださり、以来お二方



ありし日の明弘師と

「報恩講」 盛大に勤修



上 和 圓 實 梯

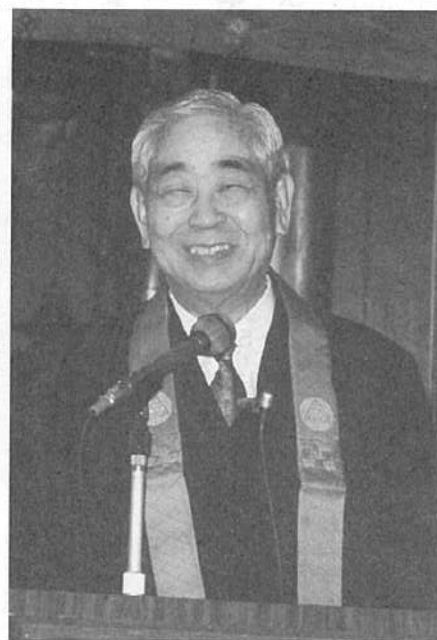


クイズ当て重量のカボチャの楽しみのお



で 囲 上 和 圓 實 梯

秋の二大法要「空華忌」



高田慈昭和上



三年に一度参拝される行信教校学生さんたちと一緒に

三十三回忌 (昭和四十七年往生)

岡田覚兵衛(1・12)中村良造(子・1・16)朝倉浅吉(2・13)山根作次郎(妻・2・27)野村松義(母・4・3)谷口浅五郎(妻・4・3)谷口重義(長女・4・27)本波久次郎(4・28)森岡昭二(母・5・8)佐々木次盛(妻・5・10)嶋田浅次郎(5・24)板嘉造(5・29)中村良造(6・10)福沢栄作(妻・8・5)橘幸雄(母・8・15)藤沢吉五郎(8・16)佐々木仁太一(母・8・16)寺崎巖(母・8・26)板川啓太郎(9・3)中村忠志(母・9・15)本波加登次(10・10)岡田長作(11・5)佐々木虎吉(11・10)新保才(11・30)川瀬八郎(母・12・21)

五十回忌 (昭和三十年往生)

川内栄作(1・1)野村五郎左エ門(八男・1・11)板川得雄(1・16)野村次郎五郎(1・18)板沢菊次郎(2・1)沢木与吉(妻・2・9)沢木菊次(妻・3・14)岡田長作(妻・3・15)大浦政男(長男・3・21)佐々木九郎七(3・28)川口清五郎(4・12)板宗八(4・

30)福沢与吉(妻・5・13)佐々木七蔵(七男・5・13)川内石松(5・16)野村虎吉(5・15)佐々木有道(妻・5・16)佐々木光治(母・5・30)朝倉保(三女・6・1)福沢五郎助(6・6)大藪六右エ門(妻・6・7)鬼原金蔵(6・9)大浦祐吉(6・25)大野弘恵(母・6・27)板沢栄次郎(妻・7・8)浦沢哲郎(7・10)橋場二作(三男・7・18)丸田久助(8・18)浦山作次郎(8・25)沢田秀三(妻・8・27)高島市太郎(8・30)谷川和十郎(9・9)長沢義雄(三男・9・18)板川広作(妻・9・24)丸田由次郎(9・25)丸田菊次郎(妻・9・26)川内繁松(母・10・21)開沢権作(妻・11・2)西中力次郎(11・7)朝倉竹次郎(11・17)川内栄次郎(二女・11・18)浦沢次郎(妻・11・20)清水信市(12・1)岩上吉十郎(妻・12・5)新保政一(父・12・17)佐々木次郎佐(12・21)中坂六三(12・25)

百回忌 (明治三十八年往生)

大野宗三郎(女・1・7)朝倉孫右エ門(婦・1・27)岩上太平(長男・1・27)根塚宇助

(3・4)嶋田九郎三郎(3・5)嶋田秀一(3・8)佐々木次郎右エ門(3・8)橋場仁三郎(3・11)佐々木善左エ門(4・6)川口九郎兵衛(4・7)岡田竹次郎(4・12)佐々木九郎三郎(母・4・14)川口清作(妻・4・28)大藪武右エ門(5・4)佐々木喜三郎(5・21)中村久八(5・28)板沢平三郎(5・31)板倉太次右エ門(5・31)橘清次郎(6・16)朝倉浅右エ門(6・23)藤沢猪之助(7・1)福沢五左エ門(7・11)佐々木平助(母・7・11)佐々木弥左エ門(8・1)中林源左エ門(8・13)尾村彦次郎(8・13)佐々木与次右エ門(8・23)佐々木助左エ門(9・4)根岸文五郎(9・13)上野五郎兵衛(9・30)佐々木清吉(9・30)川口九郎助(10・9)橋場武次(10・13)橘爪孫十郎(12・9)



関東参拝旅行

10/7~9

福井千福寺さんとの合同参拝旅行。稲田の西念寺、下妻の小島の草庵跡など親鸞聖人の関東でのお暮らしぶりを偲ばせていただきました。



花の会御堂演奏会出演

11/23

花の会発足二十周年を記念して以前から念願だった本山参拝が実現しました。特訓を重ねて？ついに四百九十人のコーラスに参加。大感動の旅でした。



寺
ごよみ

二月

一日 浦山お講

三日市報恩講

九日 生地荻生報恩講

一〇日 下立お講

一六日 歎異抄講座

一八日 下立報恩講

二〇日 舟見報恩講

二三日 入善報恩講

二六日 熊野報恩講

二七日 板屋報恩講

寺
ごよみ

三月

一日 浦山お講

二日 浦山報恩講

一〇日 黒西組仏婦総会

一六日 析沢お講

一七日 歎異抄講座

二七日 雪ん子劇団

春の定期公演

御正忌

ごしょうき
親鸞聖人のご命日に
行われる厳肅な法要

一月十三日 午後一時 お逮夜

「悪人正機の願い」 雪山教隆

十四日 午後一時 お逮夜

「極大慈悲の母」 転法輪正視師

十五日 午前十一時 お講

午後一時 お逮夜

午後七時 お初夜

十六日 午前十一時 お講

午後一時 ご満座

「歎異抄第二条の響き」

佐々木徹生師(大阪)



歎異抄講座

時 間…午後七時

場 所…門徒会館2F

会 費…千円

講 師…高務哲量師(福井)

「歎異抄」は世界に誇り得る宗教書のひとつであり、隠れたベストセラーであるとも言われます。受講日初回は二月十七日。是非この機会をお見逃しなく!

日曜学校

かるた大会

一月三日午前十時



仏婦総会

二月一日午後一時

おつとめ、総会

法話：坊守雪山玲子

雪ん子劇団

卒業公演

三月二十七日午後

入場無料

「うちのとうちゃんえらいんだ」

「この道」

他



一月十一日午後一時

御正忌準備

一月十二日午前八時半

仏教書を読んでみませんか?

一般書店で手に入り



くい仏教書を中心に、販売のお手伝いをさせてもらっています。興味のある方はお寺までどうぞ。

『朝には紅顔ありて』

大谷光真著、『蓮如』梯

實圓著、『浄土真宗の教

え』高田慈昭著、『蓮如

上人のキーワード』天岸

浄圓著、『やさしい真宗講座』霊山勝海著、など。

合 掌

十月二十六日、福井林久寺へ嫁いだ転法輪有花に長男が誕生、両家のおじいちゃんの名前の下の文字をとって『真弘』と名付けられました。元気な男の子の誕生で家族中おおわらわの毎日です。

* * *

十二月八日朝、前住職隆弘の兄利井明弘師が急逝しました。心臓の手術後も超人的なスケジュールをこなしていました。周囲は随分と心配していましたが、本人は念仏弘通のため、東奔西走するばかりでした。こちらは寂しくなりますがお浄土は賑やかなことでしょう。

* * *

人間のはかなきことは老少不定のさかいなればたれの人もはやく後生の一大事を心にかけて念仏もうすべきものなり
蓮如上人のお声が聞こえてきます。

